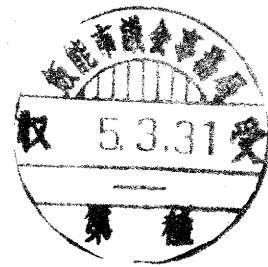


様式第4号(第5条関係)



政務活動費収支報告書

令和5年3月31日

(あて先) 飯能市議会議長

議員氏名 熊田 尚子

飯能市議会政務活動費の交付に関する条例第5条第1項の規定に基づき、下記のとおり令和4年度の政務活動費収支報告書を提出します。

1 収入 政務活動費 180,000円
2 支出 153,879円

(単位:円)

科目	金額	備考
調査研究費		
研修費	116,500	財政分析基礎講座、第84回全国都市問題会議、特別セミナー(檜原森のおもちゃ美術館から学ぶ木育×地方創生の実践)
広報費		
広聴費		
要請・陳情活動費		
会議費		
資料作成費		
資料購入費	18,295	本購入費 10冊分
人件費		
事務所費		
その他の経費	19,084	消耗品、インク、コピー用紙
合計	153,879	

3 残額 26,121円

- (注) 1 備考欄には、支出の内訳を記載すること。
2 領収書その他支出を証する書類の写しを添付すること。
3 政務活動費収支報告書に係る政務活動事業実績報告書を添付すること。

政務活動事業実績報告書

議員氏名 熊田 尚子

飯能市議会政務活動費の交付に関する規則第5条第2項の規定により、令和4年度政務活動費に係る事業実績報告書を次のとおり提出します。

月 日	事業名	事業概要及び成果等
4月13日～ 4月14日	財政分析基礎講座	<p>主催者 NPO法人多摩住民自治研究会 会場 都立多摩図書館セミナールーム 概要 自治体の財政状況を知るための方法を、財政状況調査関係資料（決算カード等）を使い学んだ。</p> <p>・〈分析用紙〉を使用し、決算カード等から自分で分析表に転記し、本市の財政状況の分析を行った。</p> <p>1決算額の推移 2歳入決算額の構成（額）比の推移 3歳入の体系 4経常一般財源等の推移 5決算額の科目順位 6目的別歳出の「充当一般財源等」の科目順位 7性質別歳出の科目順位と推移 8財政指標（諸指数）の推移 9財政健全化法の健全化判断比率の状況（財政状況資料集） 10地方交付税算定台帳と算定経費の経年的推移 11類似団体比較カードの推移 12合併算定替の影響 1の補表 資金繰り（やりくり）度の経年分析 4の補表 経常収支比率の構成比の比較 8の補表 公債費負担比率・起債制限比率と実質公債費比率の推移</p> <p>自治体財政の状況を分析するための方法として「習うより慣れる」ということで、分析表を使用し自分の自治体の実際の財政データを記入していく</p>

<p>10月12日～ 10月14日</p>	<p>第84回全国都市問題会議</p>	<p>ことで、仕組や言葉などを学ぶとともに、財政状況への関心を広げることができた。繰り返し学んで理解を深めていきたい。</p> <p>主催者 全国市長会、(公財)後藤・安田記念東京都市研究所、(公財)日本都市センター 協賛 (公財)全国市長会館 会場 長崎市 出島メッセ長崎 参加者 新井市長 中元議長 加藤議員 野田議員 野口議員 武田議員</p> <p>議題：個性を活かして『選ばれる』まちづくり～何度も訪れたい場所になるために～</p> <p>日程 《第1日》10月13日(木)</p> <p>9：30 「開会式」</p> <p>9：50 「基調講演」(株)ジャパネットHD代表取締役社長兼CEO 高田 旭人氏</p> <p>11：00 「主報告」長崎県長崎市長 田上 富久氏</p> <p>12：10 「昼休憩」</p> <p>13：30 「一般報告」島根県立大学地域政策学部准教授 田中 照美氏</p> <p>14：30 「休憩」</p> <p>14：50 「一般報告」山形県山形市長 佐藤 孝弘氏</p> <p>15：50 「一般報告」(一社)地域力創造デザインセンター代表理事 高尾 忠志氏</p> <p>17：00 「終了」</p> <p>《第2日》10月14日(金)</p> <p>9：30 「パネルディスカッション」</p>
---------------------------	---------------------	---

		<p>〔コーディネーター〕 東京都立大学法学部教授 大杉 寛氏</p> <p>〔パネリスト〕 ゆとり研究所所長 野口智子氏</p> <p>山梨大学生命環境学部教授 田中 敦</p> <p>NPO法人長崎コンプラドール理事長 桐野耕一氏 岐阜県飛騨市長 都竹淳也氏</p> <p>兵庫県伊丹市長 藤原保幸氏</p> <p>11：50 「閉会式」</p> <p>『個性を生かして「選ばれる」まちづくり』をテーマに様々な立場の登壇者から取り組み事例等の報告がなされた。</p> <p>・基調講演 ジャパネットHD代表取締役社長兼CEO 高田 旭人 氏 三菱重工業長崎造船所幸町場跡地にサッカースタジアム、商業施設オフィスホテルが組み合わさった大型複合施設を建設するスポーツ地域創生事業「長崎スタジアムシティプロジェクト」において、長崎市と連携協力をしつつ、行政ではできない発想を民間が主体となり提案実施してきた。 民間だからできること、行政だからできることの官民の役割分担を明確化して事業を展開し、手を取り合いながら地域全体の幸福総量を増やしていきたいとの講演であった。</p> <p>主報告 長崎県長崎市長 田上 富久氏 我がまちの価値とは？ということで「価値を見つける」「価値にきづく」「価値を磨く」「価値を生み出す」とも4つの観点から価値を見つめ直し、魅力のあるまちづくりについて考察された。長崎市は「景観」をまちの文化度を示す指標として重要視し、景観の整備に重きを置いた「景観まちづくり」を推進しており、良好な景観形成に向けた様々な取り組みを行</p>
--	--	---

<p>11月14日</p>	<p>特別セミナー～檜原森のおもちゃ美術館から学ぶ木育×地方創生の実践</p>	<p>なっている。</p> <p>島根県立大学地域政策学部准教授 田中 照美氏 人口減少が避けられない中において関係人口、「観光以上、定住未満」の層を増やす為の戦略と事例を紹介されていた。</p> <p>2日目のパネルディスカッションでは 「個性を活かして選ばれるまちづくり」をテーマに東京都立大学法学部教授大杉覚氏がコーディネーターを務め、「選ばれ続けられるまちづくり」のヒント、パネリストから各地域における様々な事例の紹介があった。</p> <p>選ばれるまちづくりの基本とは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 先ず幸せであること。 ・ 暮らしの中での様々な体験があること。 ・ 行政の幸せづくりへのサポートが充実していること。 <p>これらを基本に、飯能市ならではの良さを発揮し官民様々な力を結集して選ばれ続けられるまちづくりを進めていくことを目指したい。</p> <p>長崎の自然や文化を活かした街並みやまちづくりに直に触れ、多くのことを研修させていただいた。ここで得た知識を飯能市のまちづくりに反映できるよう引き続き尽力して参りたい。</p> <p>主催 地域活性化センター NPO法人芸術と遊び創造協会 会場 檜原森のおもちゃ美術館 概要 森林資源の活用及び木育による地域活性化について学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 檜原森のおもちゃ美術館、おもちゃ工房見学 (檜原森のおもちゃ美術館 館長 大谷貴志氏) ・ 檜原：運営団体立ち上げから地域活性化へ (檜原森のおもちゃ美術館 館長 大谷貴志氏) ・ 行政：檜原村での木材利活用とおもちゃ美術館 (檜原村役場 産業環境課)
---------------	---	---

		<ul style="list-style-type: none"> ・ 木育による地域活性化と全国のおもちゃ美術館 (東京おもちゃ美術館 木育推進事業部高野祥代) ・ グループ別意見交換会 「わがまちで木育をどう進められるか」 進行：地域活性化センター連携交流室 望月さやか <p>森林面積93%、高齢化率52.5%の檜原村での森林資源を活用しての地域活性化、小さな村の大きな挑戦ということで、素晴らしい「檜原森のおもちゃ美術館」を実際に見学させていただきながら、どのように進めてきたか聞くことができた。「人間が生まれて初めて出会うアートはおもちゃである」との言葉に共感すると共に地域の魅力・文化を活かし新たな人の流れを創出していけること、多世代交流・市民参画を森林の利活用及び木育により地域を活性化していくということに大きな魅力を感じた。ここで得た知識を飯能市にも反映できるよう尽力していく所存である。</p>
--	--	---

(注) 使途基準の項目別に記載すること。